

# 富貴堂

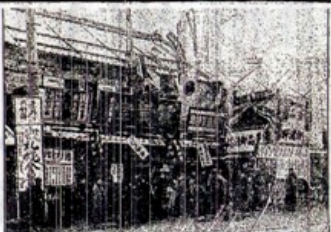
1898~2003年

田原 洋朗

「富貴堂は、北海道の中央官  
府札幌にあり、あまねく内  
外の書籍・楽譜・文房具・運動  
具を始め学校用器具・理化学  
器械に至るまで、すべて教育  
上必要の機関を最も低廉に最  
も迅速に全道に供給するを使  
命とし、事業の発展に伴い、  
有益なる圖書を発行して、顧  
客の殊遇に酬いん事を期す」  
今からちょうど100年  
前、1913年（大正2年）  
に発行された「内村先生講演  
集」（内村鑑三、札幌農科大学  
基督教青年会編、東京・警  
醒社書店／札幌・富貴堂書店）  
巻末に、この標語が掲げられ  
ている。

富貴堂は、1898年（明治  
31年）創業、2003年に閉店  
した札幌の書店で、明治・大正  
・昭和・平成にまたがる105  
年の間に、一書店としてだけ  
ではなく、地方出版の担い手  
として、歴史をかたちづく  
ってきた老舗中の老舗だった。  
札幌近郊にお住まいの大好き  
の方には、まだ記憶に新しい  
「町の本屋」かもしれない。  
創業者・田原洋朗は、1877  
年京都の生まれ、初めて北

1913年3月15日の北海道タイムズに載った「富貴堂の新着」



1913年12月13日の北海道タイムズに「富貴堂の新着」とともに載った当時の富貴堂の外観

## 100年前の目録広告



たはら・ひろあき 58年総合管内札幌生まれ。高  
校時代を札幌で過ごし、専修大卒業後、大阪での会社  
勤めを経て、コンチエツの企画制作販売を行う有限会  
社「ブックストップ」を設立。現在は、インターネット  
古書店の運営・手製本の制作も手掛ける。札幌在住。

北海道を訪れたのは93年。渡道  
後、近江長浜出身ですでに油  
屋を営んでいた「大丸藤井」  
創業者の一人藤井太郎郎の  
とで修行を重ねた。熱心で敬  
慮なクリスチャンであった藤  
井の影響を強く受け、信以は  
自らもキリスト教に入信。内  
村鑑三らが創設した札幌独立  
教会での受洗だった。

### 当時の書棚正確に再現

海道を訪れたのは93年。渡道  
後、近江長浜出身ですでに油  
屋を営んでいた「大丸藤井」  
創業者の一人藤井太郎郎の  
とで修行を重ねた。熱心で敬  
慮なクリスチャンであった藤  
井の影響を強く受け、信以は  
自らもキリスト教に入信。内  
村鑑三らが創設した札幌独立  
教会での受洗だった。

1913年2月からは、北  
海道をめぐり、各書店の  
目録を見て、その内容を  
正確に再現した。当時の  
書棚は、紙に「富貴堂  
の範囲で書誌データを追加・  
修正して、2013年版の1  
913年版目録とした。そ  
の例は、1913年3月15  
日掲載分の一部。「科学小説  
？」の欄に「堀口蕉二訳 東亜  
堂発行 定価八十銭 送料八  
銭（以下田原の追加注）H・  
G・ウェルズ『The Invisi-  
ble Man』 東亜堂書房

ちよと100年後に、その  
目録広告を見つけてしまっ  
た奇縁を思い、自分の作る目録  
の中にこれを再現してみよう  
と思いついた。そして4月、  
当時の「富貴堂の新着」を付  
録として収録した。「ブック  
ストップ」田原書店 古書目  
録 第4号」を発行した。

「富貴堂の新着」には「此  
目録を編めて書籍目録とせら  
れたし」「毎十冊掲載」「札  
幌南一条西三 電話二五七  
振替東京一七二二」などの表  
記があり、十数冊の新刊書の  
題名、著者名、出版社名、商  
品代金、送料が掲載される。  
それをベースに、私が知りう



「富貴堂の新着」の原稿

1913」  
掲載されている本のほとん  
どはまったく未知の書籍だっ  
た。しかしながら、インタ一  
ネット検索の工夫を重ねれば  
も、その存在に辿り着けない  
本もまだほとんどない。自分  
自身の知識の無さに古書店主  
失格ではないかと自問しなが  
らも、100年前の札幌の刊  
新刊書の書棚をより正確に再  
現していく作業は、興味深く  
面白いものだった。

この「目録の目録」製作を  
通じて、漠然とした概念でし  
かなかった100年前が、  
今現在と変わらぬ側面を持っ  
た「つい最近」と感じられる  
ようになった。内地の各所  
から配送された本が札幌の一  
書店の書棚に納まり、それを  
薦めて売る人と興味を持って  
読む人と買う人がいて、商  
売と文化活動と日々の生活が  
続いていく。なんの変わりも  
あるのだろうか。

目録形式の広告は1914  
年末まで続き、15年以降は以  
降「も」というべきか「此  
目録を編めて書籍目録とせら  
れたし」とは違う「富貴  
堂新着週報」として、少なく  
とも18年（大正7年）2月ま  
では新着書籍広告が続いた。

